

令和6年度 第2回 横浜市民ギャラリーあざみ野指定管理者選定評価委員会 議事録

- 1 日時 令和6年8月2日（金） 13時30分から15時30分まで
- 2 場所 横浜市役所 18階会議室 みなと4
- 3 出席者 山村 仁志委員長、市川 泰憲委員、加世田 恵美子委員、河原 啓子委員、竹森 順一委員
- 4 傍聴者 2名
- 5 議事内容

| | |
|--------------|---|
| 議 題 | <ul style="list-style-type: none"> 1 応募団体面接審査 <ul style="list-style-type: none"> (1) 提案者プレゼンテーション (2) 提案者に対するヒアリング 2 本審査 <ul style="list-style-type: none"> (1) 応募団体欠格事項等の確認について (2) 審議及び採点 |
| 議事・ 委員意見等 | <ul style="list-style-type: none"> 1 開会 <ul style="list-style-type: none"> (1) 定足数の確認 委員数5名のうち5名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 (2) 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市民ギャラリーあざみ野指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、「応募団体面接審査」は公開、「本審査」は非公開とした。 2 応募団体面接審査 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団による提案書のプレゼンテーションの後、委員による質疑を行った。 <p><主な質疑応答></p> <p>(以下「・」: 委員、「→」: 提案者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランディングという言葉が様式12などいくつか出てくるが、その方法論や具体像を伺いたい。 →まずは信頼だと思っている。市民ギャラリーあざみ野に来ればこのようなことが体験できる、あそこに行けば楽しそうと思っていただけるなど、プロモーションだけでなく実際に来ていただいたときに、それに答えられるプログラムを自分たちもやっていくことが必要だと思っている。その信頼が積み重なっていったときに、横浜市民ギャラリーあざみ野はこういうブランドがあるということを外部の方に認識していただけたらと思っており、そのような取り組みを地道にしていきたい。 ・様式16や定性指標に「いくつかの波及的効果を想定し調査」や「何を期待しているか調査します」と、調査という言葉が出てくる。独自の調査を蓄積するのはとても重要なコンテンツになると思うがその調査結果をどのように展開していくのか構想があれば伺いたい。 →指定管理を5年続けていく中で事業の振り返りに使っていくことが大事だと思っており、来館者や体験した方がどのようなことを感じてお帰りになったということ |

調査して次のプログラムに生かしていくということを第一に考えている。その上で学芸員やエドゥケーターが論文にまとめて発表や報告書に調査のデータを使っていくことなどをイメージしている。

・ヒアリングはどういう方を対象にしているのか。
→アンケートだけでは取り切れない内容や当事者自身の声が拾えない場合もあるので特別支援学校の先生方などの支援者の声をヒアリングすることが大事になる。

・アーティストインタビューのコンテンツ閲覧数など反応はいかがか。
→動画の再生数は限られていが、実際に体験した方がより深く技術や作家のことを知りたい、作品のことを知りたいといったときに手がかりとなるようなものが残っていることは非常に重要だと思う。

・メディアへの働きかけを積極的にやっていく姿勢が読み取れるが、自分たちで収益を得ることを狙っているのか。
→助成金は必ず得られるものではないが事業での収入はある程度見込んで実施しており、事業ベースの収入を増やしていくことは持続可能にしていくためには重要。大方の美術館が実施している記者内覧会は、新たに取り組んでいけたらと思う。

・様式 12 の基本方針で「何気なく人が集まる」と表現しているが、どういう狙いか。場所柄何気なくぶらっとというのにギャップがある。
→文化施設は目的性をもって訪れるのが通常の行動となるが、無目的で訪れる方を呼びこめないかという考え方。アートに触れるという目的だけでなく、気軽に施設に来ていただける場所にしたいと思っている。

・公益財団法人となるので公益性が要求され、収支は基本的にはゼロという理解であるが、財務内容を見ると 12 億円積みあがっている。公益性の観点から、今後どのように使っていく予定か。
→横浜美術館のリニューアルに積立てという形で収支相償を取っている。貸借対照表に細かく記載している。

・5年間の収支計画について、5年間の収入金額が1億8千万で一定としており、人件費については5年間で徐々に上がっていく。人件費の増加分が自主事業費及び消耗品費の減少という形で補う計画としているが、自主事業費の減少は事業の質の低下にならないか。
→展覧会・企画展などの収入を見込み、それを事業費に充てることで、事業の質の低下を防いでいければと考えている。

・一部入場料・図録・パンフレットの有料化により自主事業収入の30%増加が計画されている一方で、様式 13 では体験格差を縮小させるという計画を立てている。ポリシーが相反すると思うがどのような考えか。
→体験格差を是正するようなところに回していくためにも、料金をいただき収入を確保していくことは、持続可能性や体験格差をなくしていく意味でも大事なことだと考えている。

・修繕予算の執行率について、目標値を90%とされている理由は。
→突発的なものが出てくることを想定し、男女共同参画センター横浜北との合築施設のため単独で執行することが難しい状況もあり、計画的に予算組みをしている

・様式 15 の人材の配置と機能、能力担保や人材育成についての考え方を伺いたい。
→当財団では人材マネジメントポリシーを立てており、それに基づき職員の公募・採用を行っている。美術分野の専門人材、学芸員・エドゥケーターについても専門性を図る試験を実施して採用している。OJT も専門性の確保・向上を目的に専門人材研修を実施している。

・様式 16-2、施設の使命を達成する取組の使命 1 の定量指標について、2 年目 5 年目の目標値が事業数と回数が混ざっており、これはどちらも書いてほしいと思っている。どれだけの種類の事業数があって回数はどれくらいかということ指標①②③それぞれ両方書いてほしいができるか。
→修正可能。

・様式 17-2 の定量指標①コレクション展への来館者数目標は、例年開催しているあざみ野フォト・アニュアル横浜市所蔵カメラ・コレクション展の来館者数ということではよいか。令和 9 年が 1,200 人、令和 12 年が 1,600 人と目標値が書いてあるが今まで実施してきたものと同様かそれより高いのか低いのか伺いたい。
→展覧会の内容で上下はあるが、多いもので 2,000 人の実績がある。有料化を見込んで平均よりやや少ない人数としている。

・同様に様式 19-2 定量指標の自主事業の参加人数は、今までの実績と比べて高いのか低いのか。今後の目標としてこの数値になっていることについて伺いたい。
→様式に記入してある様々なプログラムを足した数の平均からコンテンポラリーなどは有料化を考慮して少し減らしているが、その他平均的な人数としている。

・少子高齢化や A I 化・地球温暖化、女性の社会進出・人材不足・移民や外国人の増加などの人口動態や介護問題等の社会情勢の変化に対し、どのようにキャッチしどう対応していくのか。
→先駆的なプログラムを実施している美術館へ積極的に学びに行き取り込むことで我々の事業も次の時代に合わせたものへ変えていくことが大事だと思っている。地域の方々が文化施設にもっと参画していただけるような機会を作っていくとそのような課題にも対応できると思っている。
例えば高齢者と子どもを繋げる場合は、学生が他世代の繋ぎ手になる、というようなことにも取り組んでいければと思っている。

・男女共同参画センターとの合築ということもあり、フロア構成について具体的に考えていることがあれば伺いたい。
→共用部の活用とっており、アトリウム空間や中庭、2・3 階の共用部分でゆっくり過ごしていただく形にしようとセンターと話し一緒に取り組んでいる。またセンターが持っている交流ラウンジや図書コーナーを活用することも検討し、夜 9 時まで開館しているという良さを形にできたらと思っている。

・様式 23 でその他収入「アートプログラムによる企業向け研修、講座による収入、文化政策におけるコンサルティングの受託」は具体的なイメージ、及び見込みをお伺いしたい。
→当財団のほかの施設において、エドゥケーターが自分たちの持っているプログラムと合わせて企業研修を実施している。そうすることで事業費の足しになる収入が得られたらと思っている。

・あれだけの収蔵作品があるのに市民ギャラリーあざみ野にそれがあるということが

知られていない。それを周知するには仕掛けていく必要があると思うが、周知方法についての具体案をお伺いしたい。

→来期からもっと積極的に既存のプログラムと絡めてコレクションを活用していきたいと考えている。そうすることで多くの方の目に触れることとなる。ショーケースギャラリーの作家にコレクション絡みの作品を創っていただき、創った作品がほかの場所で展示され、そのように波及していく。横浜には写真文化があるので、コレクションと絡めて、カメラ・写真のコレクションを知っていただく機会を担当学芸員が作っていくことも大事だと思っている。

・様式 18 に記載のアトリエ利用率だが、今までも 50%位で 5 年目で 63%としているが、目指す数値として 7 割 8 割にはならないものか。

→現状はなっていないがそれを伸ばす努力をしていく。

・横浜は日本の写真館発祥の地、日本での写真イベントはほとんど横浜で実施、カメラメーカーのソニーはみなとみらいにあるなど横浜は写真の中心になりつつあるところと、保有の写真コレクションをいかに生かせるか。常設展示や付随したワークショップ・講演会など、ここに来れば写真を見たり写真やカメラの話ができるというようなどころになればいいと思っている。

あざみ野在住の知人が東京で写真の個展を開いているが、そういう人がここで開くような場になるにはどうしたらよいか考えていただけたらと思う。

→承知した。

・一昨年位はフェイスブックなどで積極的にギャラリーの内容が発信されていたが去年は全くない状態になっていた。具体的に今何をやっているのかは自分でホームページへ見にいかなくは確認できない。何をやっているか分かるようにもっと一般的に働きかけてもよいと思うがいかがか。

→積極的に関係者だけではなく一般の方も含めて広報していくことは必要だと思うので、引き続きさらに増やしていけるように取り組みたい。

・若い人たちの写真の価値や価値観も変わってきている。フォト・アニュアルでの受賞作家だけでなく、別の形でのピックアップや若い人たちへの提案、またそういう人達を集めてみる動きがあってもいいのではと思う。

→承知した。

・コレクションと写真という独自のオリジナリティーのある部分を国内外にどのように打ち出していくのか。

→資料・所蔵品の整理をしていく中で、ようやくカメラの部分がまとまって学芸員が論文を書いた状況なので、これからはそれを英語にして発信していくということをしていきたい。

地域の文化施設という側面とカメラ・写真コレクションを持っているという側面と両方の面があり、それが高度に融合していけば理想的な形になるが、すぐにはそうはならないと考えている。

カメラ・写真コレクション用の SNS アカウントを作って発信していくとブランディングに繋がると思っている。

3 本審査

(1) 応募団体について、応募団体の欠格事項のうち、市税等の滞納がないこと及び暴力団又は暴力団経営支配法人等ではないことが確認された旨を事務局から報告。

(2) 提案書類及び面接審査の内容を踏まえ、委員による意見交換、各評価項目の採点

| | |
|------|---|
| | <p>を行った。</p> <p>【審査結果】</p> <ul style="list-style-type: none">・提案者：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 <p>総得点1,275点／997点（委員5名×持ち点255点）</p> <p>なお公募要項に、指定候補者及び次点候補者となるためには、選定評価委員会の定める最低基準点（加減点項目を除く評価基準項目の合計225点満点の6割以上）を満たすことが必要である旨の記載があり、5名全ての委員の採点がこの基準を満たしていることを併せて確認した。</p> |
| 審査結果 | <p>応募団体：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団を指定候補者として横浜市長に報告する。</p> <p>なお、審査結果及び講評は、本日の意見を集約し、委員長確認のうえ報告書にまとめる。</p> |